

南越稲作情報 No5

— 斑点米カメムシ・いもち病・紋枯病対策 —

南越農林総合事務所 農業経営支援部

1 カメムシ防除……適期に、適切な薬剤を、適量、使用しましょう。

(1) 本田の防除時期と使用薬剤 () は10a 散布量

防除時期	1回目 穂が出そろった頃	2回目 1回目の7日後
粉剤防除	カスラブスタークル 粉剤 DL(3~4キロ)	スタークル粉剤 DL (3キロ)
粒剤+粉剤防除 ※斑点米多発地 はこの体系で!	スタークル粒剤 (3キロ)	アルバリン粉剤(3キロ) または スタークル粉剤 など



※いずれも散布適期がたいへん狭く、時期を逃すと効果が小さくなる。

(穂が傾き始める前に防除を終えること)

※粒剤の散布は水深3cm程度の湛水とし、散布後は排水口を閉め7日間は落水しない。

※粉剤、液剤の散布は、カメムシが活発に活動する早朝または夕方が効果的!

※畦畔を含めて防除すること。

(2) 畦畔、麦跡水田の対策

- ・今後の草刈り、耕うんは、カメムシを水田に追いやるので行わない。
- ・休耕田の草刈りや耕うんをしていない場合は、次の殺虫剤を散布する。

散布時期	散布薬剤
本田のカメムシ 防除(1回目)の前	休耕田に登録のある粉剤・乳剤 スミチオン、トレボン、MR. ジョーカー など

2 その他の病害防除

(1) いもち病防除……長雨続きのため、発病に適した条件となっています。

- ・葉いもちが見られたら、早急に粉剤を散布する。(箱施薬した水田でも発生)
- ・穂いもち防除は 粉剤または液剤なら、“穂が出始める前” + “穂が出そろった頃”
※ 穂いもち予防剤未散布田は、コラトップ粒を出穂5日前までに散布する。

(2) 紋枯病防除……昨年の発生田で特に発生しやすい。

- ・薬剤散布は 粉剤または液剤なら “穂が出始める前”

表 ハナエチゼン、コシヒカリの予想出穂期 (月/日)

品 種	植栽 区分	移植・播種日	平 坦		中山間	
			幼穂形成期	予想出穂期	幼穂形成期	予想出穂期
ハナエチゼン	移植	5/1	6/28	7/22 頃	7/1	7/23 頃
コシヒカリ	移植	5/4	7/7	7/31 頃	—	—
		5/13	7/17	8/10 頃	7/17	8/10 頃
	直播	5/1				

「穂が出始める前」は、出穂期の約3日前で、茎が太く膨らんできた頃になります。

「穂が出そろった頃」は、出穂期の約4日後です。

農薬散布は、風のない日や時間帯に行い、近隣の園芸作物にかからないように!

病虫害防除の時期と薬剤散布の例

1 粉剤による防除例

() は10a 当たり散布量

散布時期	穂が出始める前	穂が出そろった頃	左の7～10日後
対象病虫害	穂いもち 紋枯れ カメムシ	穂いもち カメムシ	カメムシ
散布薬剤名	カスラブバリダトレボン 粉剤DL (3～4kg)	カスラブスタークル 粉剤DL (3～4kg)	スタークル粉剤DL (3kg) など

2 粒剤＋粉剤による防除例

() は10a 当たり散布量

散布時期	穂が出始める前	穂が出そろった頃	左の7～10日後
対象病虫害	穂いもち	カメムシ	カメムシ
散布薬剤名	コラトップ粒剤5 (3～4kg) 出穂5日前まで	スタークル粒剤 (3kg)	アルバリン粉剤DL (3kg) など

※紋枯病対策の粒剤にはリンバー粒剤を用いるが、使用晩限が「出穂10日前まで」である。 ハナエチゼンや平坦地の移植コシヒカリでは、使用できないので注意する。